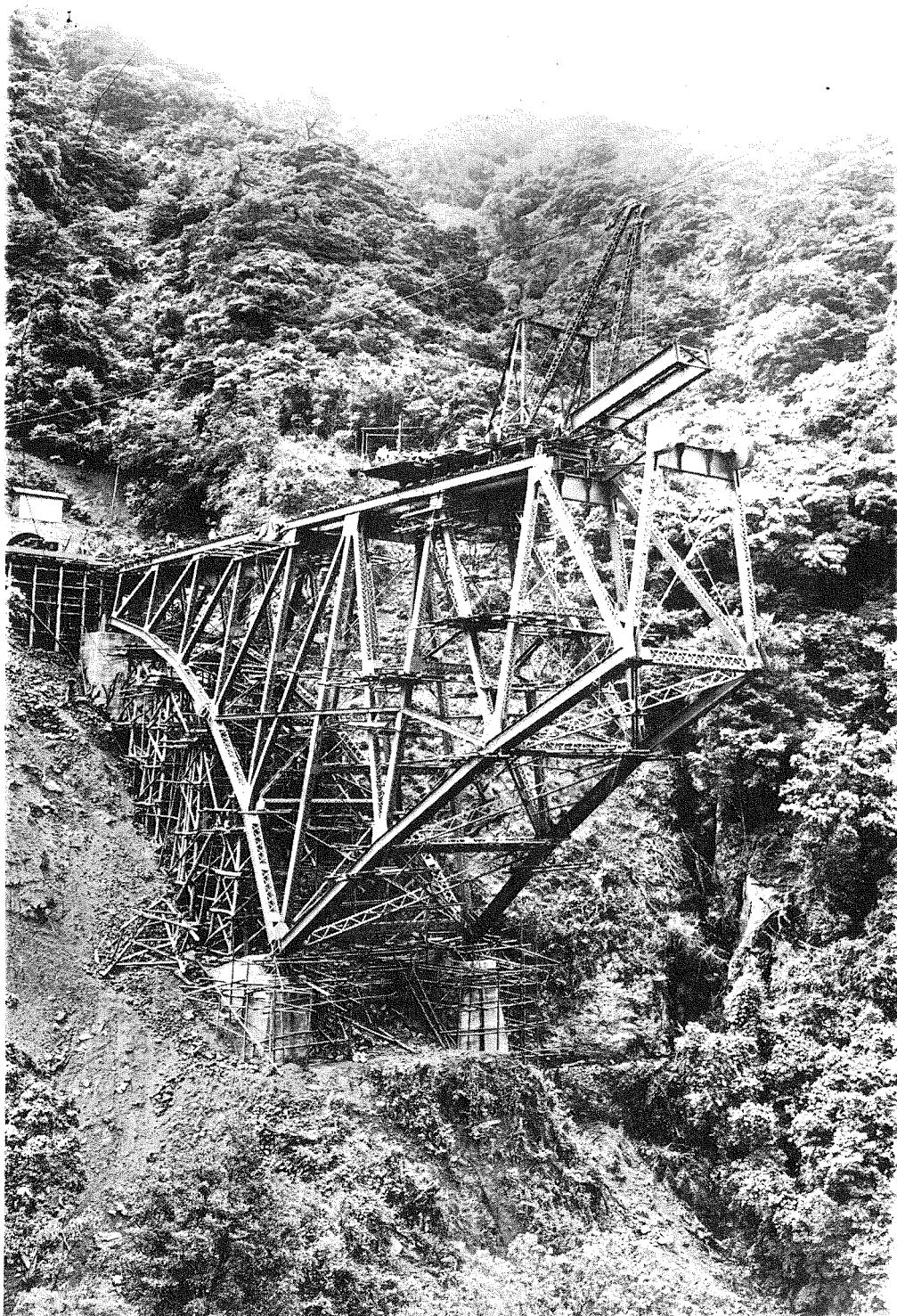


高森線バランスドアーチ橋工事



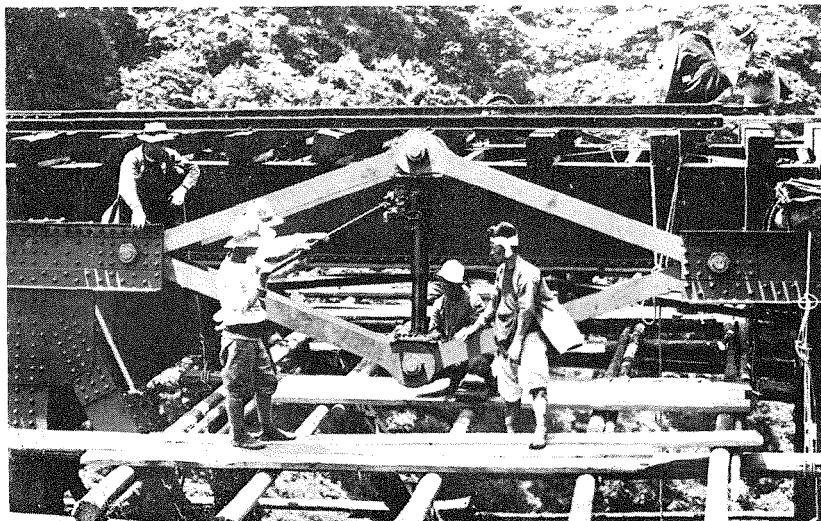
(8) 第一白川橋エレクション高森側ストリンガー架設 (8) Erecting Stringer at Takamori Side.

高森線バランスドアーチ橋工事



(9) 第一白川橋エレクション立野側ポスト樹込み (9) Placing a Post at Tateno Side.

昭和二年六月十二日阿蘇山麓白川のバランスドアーチ鐵道橋は



(10) トッグルの操作、先端は徐々として相近く

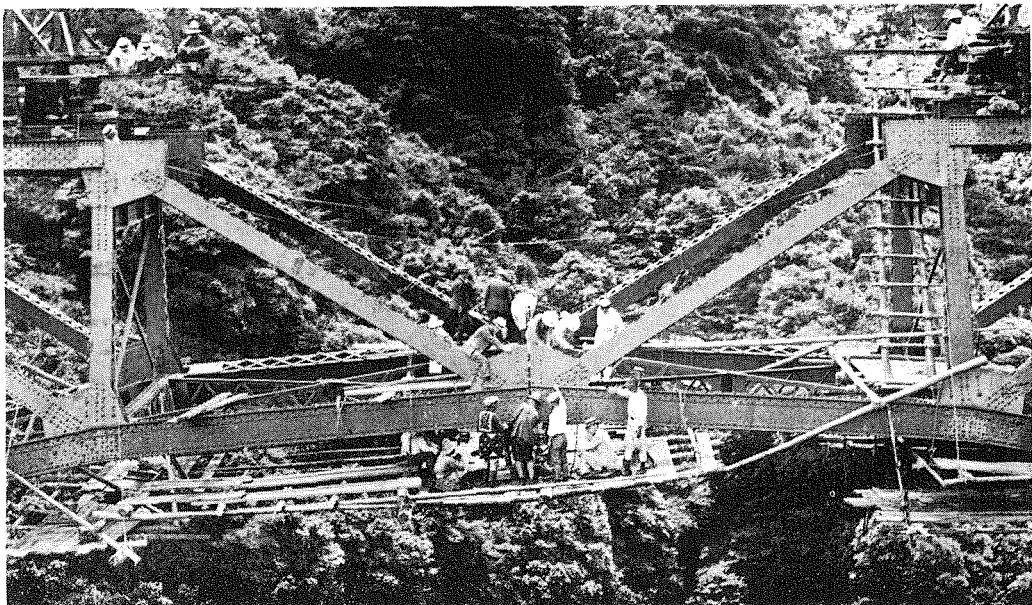
(10) A Toggle at Work.

中央結合 の状態	下弦材に於ける双方の先端に於て	
	揚越	10時
	間隙	7時 (29°C)

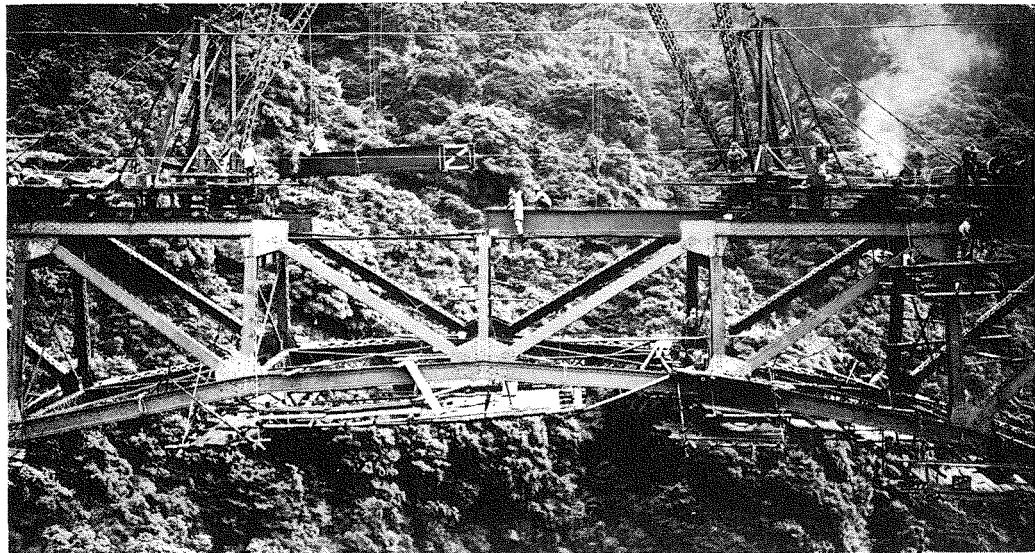
揺れ(高差)  $\frac{3}{4}$ 吋  
上記の状態の下に「トッグル」を操作し歪を容易に匡正しつゝ約40分間にて完全に結合せり。

(11) 中央の結合、寸分も違はずに

(11) Joining the Center.



午前十一時に中央の結合を寸分も異はずに取付けた。記念光景



(12) 漸次完成に

(12) Placing the Last Upper Cord.

上弦材も豫定の長の儘寸分違はず結合す。

中央結合 7月11日

工事期間は

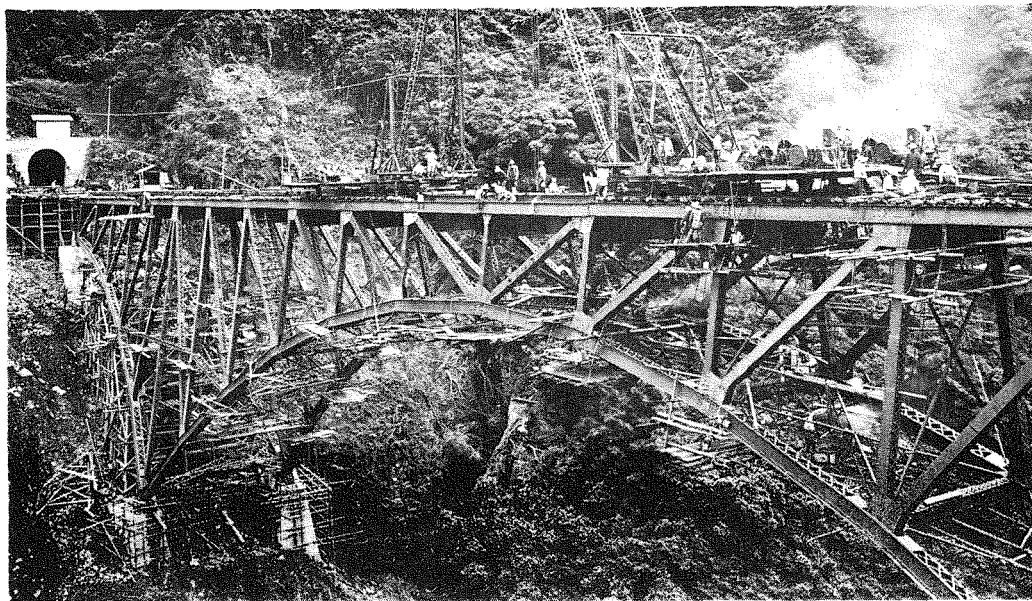
沓の据付 4月1日

試運轉 7月26日

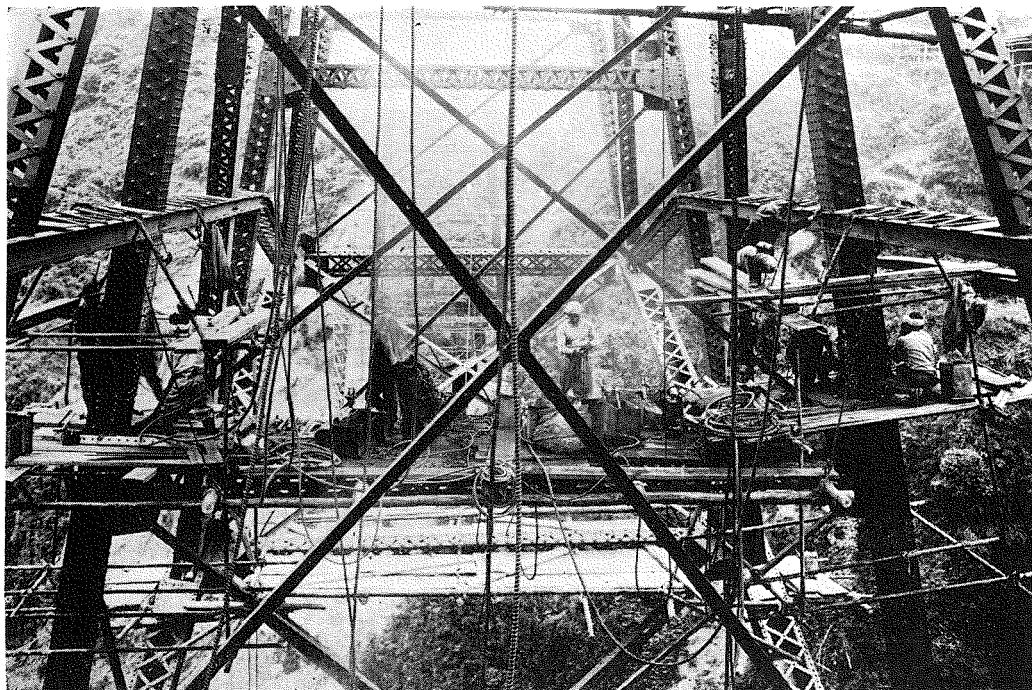
片付終了 8月5日

(13) 最後のアッパーコード挿入

(13) View of the Bridge Nearly Completed.



(14) リベッティング、頭上の灼熱、脚下の險と鬪ひつつ



(14) View of Riveting.

## 架設を了して

阿蘇山麓にて 河 西 生

熊本の一山村、嚴冬は數尺の氷柱、孟夏は水沸く酷暑、熊襲の本據を背かれる。『眼を放てば千古斧鉄の入らざる原生林、仰けば阿蘇の噴煙天に冲し、俯せば白川の奔流岩を噬む。』仙境だといふ。そうかも知れぬと考へながら、此處に三年は過ぎた。

明くるも暮るゝも考へるこゝは橋に限られ訪ふ人は踵を接するが其の問答は結局橋に終始する。『橋の上にも三年』で短くなかつた、様にも思ふ。

×      ×      ×      ×

本橋梁型式は震災以前既に研究され其大體を決定してゐた。爾來更に精観なる比較研究の下に其設計、製作は迂回曲折を経、幾多の人が其の腦漿を絞つてゐる。中には既に幽明

境を異にした人、又は既に職を辭した先輩も少くない。架設根本方針決定には本省建設當局は激務中より寸暇を割いて頭を悩された。具體方針確定に至つては池原、瀧淵兩技師により縦横細大洩さずの研討が行はれた。斯くて代物は 500 尺の橋梁に過ぎないが、數年に亘り、數十人の人が創業の苦を嘗め、啓蒙の難に鬪つたのであつた。

×      ×      ×      ×

私が殿を承り架設現場に直面して、絞つたものは薄き智慧、奮つたものは弱き力であつたに拘らず、慈父の如き所長に後立たれ師の如き先輩に導かれたる爲め數旬の作業に依り既に橋上にはエンジンが快い響をたてゝゐる雄人に浮び出た橋の姿の中に先づ前記の人々

## (15) 七月二十五日組立竣 工 試 運 轉



(15) First Engine Passing on Completed Bridge, July 25th, 1927.

の多年拂つた見へない力を見出すのである。

×      ×      ×      ×

作業に當つては現場は需々として人の和に依る力は何者をも貰かずには止まなかつた。組立は中心に中心に極めて順調に迫つた。最後中央に於て下弦材が寸分の狂も見ずに結合した時には一同微笑した。更に上弦材が之又完全に直に取付けられたるには人々は寧ろ驚の目を見張つた。橋材の出來榮は完全と云ふべく製作所汽車會社の勢を多々しなければいけない。

×      ×      ×      ×

人の和と又信念とか云ふ者が或る意味に於て「神」であるならば、私は此處で其の萬能の力の一端を感じた。又算盤や尺度に依る物の理屈が如何なる正確さを以つて結末に達し得るかと云ふ其偉力を観面に見せつけられた。

組立に關する設備の方法は可及的「簡易」に勉めた。「最簡最良」は組立技術者の玉條である。文化住宅モダンガール、ボーイの「簡易」さは兎まれ、世事一般の「仕事」に關し時機に適せる金科玉條は「簡易にして巧妙」に盡きはしないか。この意味に於ても畫報の奮發を切望す。

×      ×      ×      ×

現場從事の職工に對しては彼等の腕を奮はしむるに努力した。「其の道に依つて賢し」で鳶の放業、製罐の苦業は當初の取越苦勞を霧消せしめた。危險と炎熱に曝され、燃ゆるが如き競争心、春風の如き姫協心、涙ぐましき同情心、之等を發揮しつゝ彼等は首脳の下に一糸亂れず、且愉快に作業をつづけた。この谷間の一小社會は或意味に於てのユートピアであらう。試練の下にあると覺悟した人間は實に立派である。